



# ほむる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】 絆徳経営のすゝめ

清水 康一朗 著 フローラル出版

ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2022年7月1日 Vol. 237

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

代表取締役 渡邊 敏徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地

TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

## 地球温暖化？

今年の梅雨はとて短く6月中に梅雨明けとなりました。それと同時に猛暑日も観測史上最も早く起こりました。メディアでは今年の夏がかなり暑くなると言われています。

近年、熱中症による死亡者数・緊急搬送者数は著しく増加傾向にあり、気候変動等の影響を考慮すると熱中症対策はとて重要な課題となってきました。

環境省と気象庁は、熱中症予防対策に資する効果的な情報発信として、令和2年7月から関東甲信地方で、「熱中症警戒アラート(試行)」の発表を実施しました。令和3年4月下旬から全国を対象に運用を開始しました。「熱中症警戒アラート」は、熱中症の危険性が極めて高くなると予測された際に、危険な暑さへの注意を呼びかけ、熱中症予防行動をとっていただくことを促すための情報です。

私たちはこの異常な暑さから身を守っていかなければなりません、これらの気候問題は“地球温暖化”が進んだことが原因ではないかとメディアで言われています。しかし、6月20日アメリカのユタ州で大雪が降りました。6月23日にはアフガニスタンでも大雪に。他にも、南米のコロンビアで、なんと60年ぶりに大雪が降りました。

しかし、台風や記録的な猛暑などは“温暖化の証拠”としてテレビや新聞で大々的に報道されますが、寒冷化していると思わせるニュースは一切報道されません。温暖化が騒がれる前には同じようなことはなかったのか？そもそも本当に地球は温暖化しているのか？NHKが海面上昇でツバルが危機に瀕しているかのような水没話を報道し、印象操作に加担するような報道が溢れているのが現状です。日本が地球温暖化対策のために使う金額は、毎日150億円、年間で5兆円にもなります。このお金は利権を持った人たちのものとなっていきます。

仕事を失いたくない環境研究者、巨大な利権を維持したい国連、儲かるエコ製品を売りたい企業、企業からスポンサー料をもらう大手メディア、環境対策を票集めの目玉にしたい政治家など、たくさんの方が集まることで巨大な利権が作られていると言われています。これらの方々にとってみれば、温暖化の裏側はまさに『都合が悪い内容』になってしまいます。私たちが便利に無料で利用しているSNSもビジネスです。本当の真実が見えなくなってしまうまいようにしていきたいものです。



## ゲノム医療

私たちの身体の細胞は、核の中にカラダの設計図である“ゲノム”というものを持っています。このゲノムの中で、特にタンパク質に関係した部分を遺伝子と呼び、遺伝子には2万余りの種類があることが分かっています。がんが生まれる主な原因はこの遺伝子の異常、すなわち遺伝子に傷が入ることだとされています。

そのため最近では、がんの遺伝子を検査してこの傷を調べることで、特定のがんの診断や追加治療の必要性の検討や、効果が高そうな薬物治療(抗がん剤)の選択の補助に用いることができるようになってきています。これを、「がんのゲノム医療」と呼びます。

日本人が一生のうちのがんと診断される確率は(2018年データ)、男性は65.0%(2人に1人)、女性は50.2%(2人に1人)。日本人ががんで死亡する確率は(2020年のデータ)、男性は26.7%(4人に1人)、女性は17.9%(6人に1人)。そして、2020年にがんで死亡した人は378,385人(男性220,989人、女性157,396人)になります。

「がんゲノム医療」では、主のがんの組織を使って多数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査(がんゲノムプロファイリング検査)」によって、一人一人の遺伝子の変化や生まれ持った遺伝子の違い(遺伝子変異)を解析し、がんの性質を明らかにすることや、体質や病状に合わせた治療などが行われています。

ゲノム医療のように医療もどんどん進歩してきています。私の父もがんで亡くなっています。がんという病が一日も早く完治できることを願います。



### 【座右の銘にしたい名言】



逆境の時こそ、先見性と機動力を試すチャンスである。

(越後正一 / 元伊藤忠商事社長・会長)